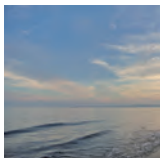


- 本制度を利用予定の会員は、事前に大会実行委員会にご連絡ください。
- 補助金を請求する際に、領収書を大会実行委員会に提出して頂く必要があります。

2) 賛助・展示・広告の募集

大会実行委員会では、本大会に賛助、機器・書籍などの展示、

および講演要旨集に広告を掲載して頂ける企業・団体を募集します。また、研究プロジェクト等のアウトリーチのための展示も歓迎いたします。展示期間は研究発表期間中の9月25-27日、展示会場はポスター会場と同じ部屋にする予定です。奮ってお申込みください。申し込み締め切りは7月10日(月)、広告原稿の提出期限は7月24日(月)です。



学会記事 ②

2023年度、2024年度 日本海洋学会幹事会メンバー および 担当業務

会 長：江淵 直人 (水産・海洋科学研究連絡協議会) … 北海道大学
副会長：原田 尚美 (若手支援、日本海洋科学振興財団) … 東京大学
監 査：神田 穰太 … 東京海洋大学
 伊藤 進一 … 東京大学
幹 事：伊藤 幸彦 (会計、リクルート戦略) … 東京大学
 岩本 洋子 (JOS ニュースレター編集委員長) … 広島大学
 大林 由美子 (選挙、海洋環境委員会、沿岸海洋研究会、
 沿岸環境関連学会連絡協議会) … 愛媛大学
 岡 顕 (庶務、ブレイクスルー研究会) … 東京大学
 岡 英太郎 (庶務、将来構想、男女共同参画) … 東京大学
 川合 美千代 (広報、教育問題研究会) … 東京海洋大学
 久保川 厚 (「海の研究」編集委員長) … 北海道大学
 齊藤 宏明 (JO 編集委員長) … 東京大学
 土井 威志 (研究発表、防災対応) … 海洋研究開発機構
 中野 英之 (選挙、集会、防災対応) … 気象研究所
 野口(相田)真希 (会計、男女共同参画、海洋環境委員会、
 海洋生物学研究会) … 海洋研究開発機構
 長谷川 大介 (広報、海洋観測ガイドライン)
 … 水産研究・教育機構
 安中 さやか (研究発表、集会、海洋環境問題研究会)
 … 東北大学
 渡部 裕美 (庶務、海洋生物学研究会、リクルート戦略)
 … 海洋研究開発機構
 (幹事は五十音順)

(担当別)

庶 務 … 岡 顕、渡部 裕美、岡 英太郎
 会 計 … 野口(相田)真希、伊藤 幸彦
 集 会 … 中野 英之、安中 さやか
 研究発表 … 土井 威志、安中 さやか
 選 挙 … 中野 英之、大林 由美子
 広報(広報委員会) … 川合 美千代、長谷川 大介
 若手支援 … 原田 尚美
 将来構想委員会 … 岡 英太郎
 男女共同参画 … 野口(相田)真希、岡 英太郎
 JO 編集委員長 … 齊藤 宏明
 「海の研究」編集委員長 … 久保川 厚
 JOS ニュースレター編集委員長 … 岩本 洋子
 海洋環境委員会 … 野口(相田)真希、大林 由美子
 海洋観測ガイドライン編集委員会 … 長谷川 大介
 教育問題研究会 … 川合 美千代
 海洋環境問題研究会 … 安中 さやか
 ブレイクスルー研究会 … 岡 顕
 海洋生物学研究会 … 渡部 裕美、野口(相田)真希
 沿岸海洋研究会 … 大林 由美子
 沿岸環境関連学会連絡協議会 … 大林 由美子
 水産・海洋科学研究連絡協議会 … 江淵 直人
 日本海洋科学振興財団 … 原田 尚美
 防災対応 … 中野 英之、土井 威志
 リクルート戦略 … 渡部 裕美、伊藤 幸彦

アカデミア メランコリア (第38回) (若手のコラム)

名城大学 日本学術振興会特別研究院 PD 木下 千尋

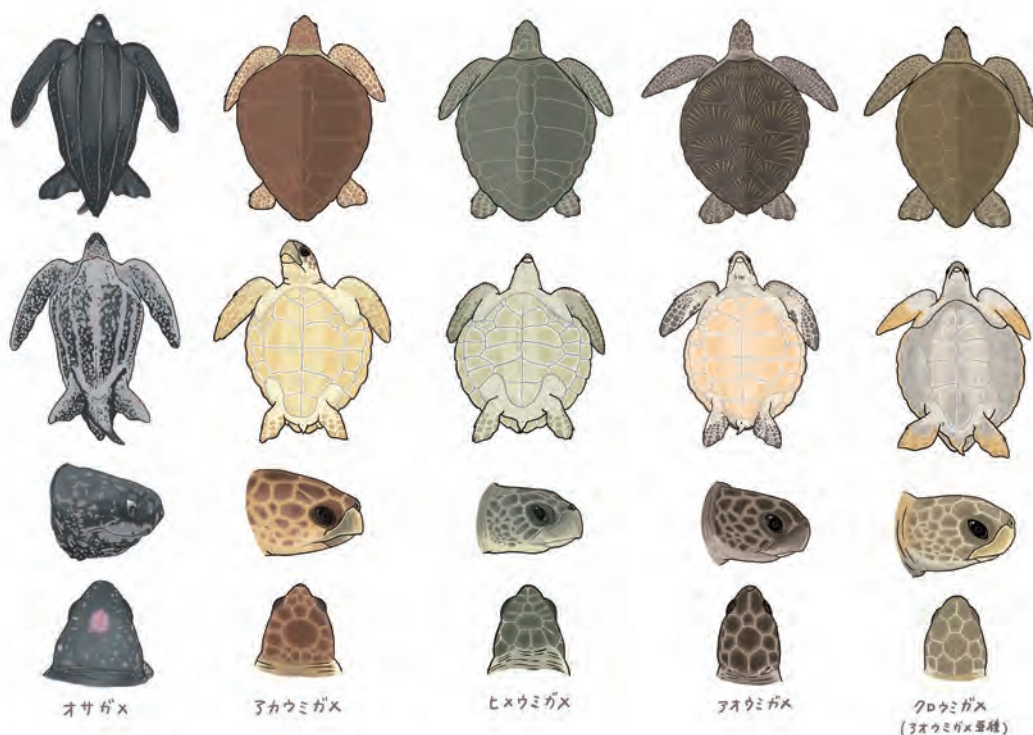
東北大学の木下さんよりご指名いただきました、名城大学に所属している学振特別研究員 PD の木下千尋と申します。

学生時代は東京大学の気象海洋研究所に所属し、三陸沿岸部で野生のウミガメ類を対象とする調査を行っていました。以下に少し研究内容を紹介します。

ウミガメ類は体温がまわりの水温によって左右される外温動物で、低水温下での潜水時間は数時間にも及びます。これは、内温動物である鯨類や潜水性の鳥類よりも随分と長いです。ウミガメ類の潜水時間を左右する生理基盤である酸素消費速度を測定し、いくつかの文献値を組み合わせることで、ウミガメ類の潜水時間を予測することができます。予測した数値を、実際の値と比較したところ、ウミガメ類は酸素消費速度に見合った時間で潜水を切り上げていることが分かりました。それだけではあまり驚きはないのですが、副産物的に、アカウミガメの安静時の酸素消費速度が、遺伝的に異なる個体群間(太平洋と地中海)で最大5.7倍異なることが明らかになりました。酸素消費速度が違えば、潜水時間に加え、体温も異なると予想されます。調べてみると、アカウミガメはやはり個体群間で異なる潜水時間と体温を示していて驚きました。しかし、謎は深まります。安静時の酸素消費速度はいつ、どんな要因で変化してきたのか、世代交代までの時間や成長速度に個体群差はあるのか…これらの謎を明らかにするのは、今後の課題です。



話は変わって、研究と並行して行っている活動について紹介します。幼少期からイラストを描くことが好きで、学生の頃からイラストレーターとしても活動していました。私の調査は、岩手県大槌町で定置網漁を営む漁師さんに協力していただき、野生のウミガメを収集するスタイルが基本となります。漁師さんなので、お酒が一番のお礼になるだろうと思い込み、一升瓶を片手に番屋に通いました。しかしある日、「酒も嬉しいけど、俺たちが持ってきたカメで何が分かったのか知りたいなあ」と言われ、ハッとしました。論文の別刷りを持っていくわけには行きませんし、講演会用に作ったスライドを見てもらえるような時間はありません。悩んだ末の最適解が、フィールド調査で分かったことをイラストにして漁師さんに渡すという方法でした(図)。漁師さんから「これなら理解できる。仲間にも配りたいからもっとくれ」と予想以上の評価を得ました。その結果、お願いしていなかった漁師さんからもカメがどんどん集まるようになりました。中には高緯度域では非常に珍しいヒメウミガメの混獲もありました。イラストは協力者を集めるための良いツールだと感じます。最近は、研究の過程を子供から大人まで楽しめるように、科学論文をイラスト図解化する活動も(業務に支障がでない範囲内で)行っています(生きもの「なんで？」行動ノート、SBクリエイティブ、他)。たくさんの方が、科学的なコンテンツを日常的に話題にできるような未来が私の理想です。研究もイラストも…というスタイルが今後どこまで通用するのかは分かりませんが、できるところまでがんばりたいです。



ウミガメの解説冊子内のイラスト